

第２期人口ビジョンの数値目標

自然動態

指 標	出典・根拠資料	2020年	2025年	2030年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	備 考
合計特殊出生率	社人研推計による	1.79	1.80	1.91	－	－	－	－		2040年に2.10まで回復させる

社会動態

「社会動態減少幅の抑制」は、人口ビジョンの取組目標である以下の各指標の合計値について検証します。検証の際は、2020年～2024年の5ヵ年・2025年～2029年の5ヵ年の年平均値を算出し、現状値と比較してください。

指 標	出典・根拠資料	2020年	2025年	2030年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	備 考
社会動態減少幅の抑制	人口ビジョンの取組目標である①ＵＩターン者数の増加、②高校卒業時の就職による町外転出者数の抑制、③就職による転出者数の抑制、④女性の結婚による転出者数の抑制に関する5ヵ年平均との比較（前期：2020年～2024年・後期：2025～2029年）	0	60	60	35	18	0	50		

指 標	詳 細	現 状	増加・抑制数		目標値 2021-2025	2020年		2021年		2022年		2023年		2024年		備 考
						実数	増加・抑制値	実数	増加・抑制値	実数	増加・抑制値	実数	増加・抑制値	実数	増加・抑制値	
ＵＩターン者数の増加	ＵＩターンによる転入（≒社会増）のうち、二人以上世帯の転入者数	69人／年	増加	29人	98人／平均	88	65.52%	63	-20.69%	62	-24.14%	83	48.28%			現状値は2017～2019の3か年平均
高校卒業時の就職による町外転出者数の抑制	横田高校卒業時に、就職により管外（県内）及び県外への転出者数	8人／年	抑制	4人	4人／平均	6	50.00%	3	125.00%	3	125.00%	5	75%			現状値は2015～2019の5か年平均
就職による転出者数の抑制	就職を理由とした転出者数	102人／年	抑制	22人	80人／平均	93	40.91%	90	54.55%	110	-36.36%	88	63.64%			現状値は2015～2019の5か年平均
女性の結婚による転出者数の抑制	結婚を理由に町外へ転出する20代・30代の女性の数	24人／年	抑制	5人	19人／平均	19	100.00%	17	140.00%	14	200.00%	5	380.00%			現状値は2015～2019の5か年平均
社会動態減少幅の抑制			目標値	60人	－	－		－		－		－		－		

2023年度の第２期人口ビジョンの動向と分析

・ ＵＩターンによる２人以上世帯は、目標98人に対し83人となり達成できなかったが、コロナ禍による行動制限が昨年５月に解除され、人の動きが出てきたこと、移住定住、子育て支援策等の効果がでてきていることも推察され、昨年度から２1人伸び、コロナ禍前の数値に戻りつつある。

・ 横田高校卒業時の就職による転出は、目標4人に対し5人となり１人届かなかったが、抑制傾向にある。（就職者１４人中９人が町内就職）

・ 就職による転出者は、目標80人に対し88人となり達成できなかったが、昨年度より２２人抑制できた。全国的に求人が増えており、職種や就業条件などから若年者の転出が増えていることが考えられる。雇用の場の確保や若年者への求人情報の発信等を積極的に行う必要がある。

・ 結婚による転出の抑制は、目標19人に対し5人となり１４人抑制できた。

・ 第２期人口ビジョンの数値目標をクリアするためには、

①二人以上世帯のＵＩターン者数を増加させるため、移住定住施策や子育て支援の取り組みを実施する。

②就職による転出を抑制するため、若年層に向けた求人情報の提供、雇用の場や定住先の確保を実施する。

③結婚による女性の転出を抑制するため、女性が働きやすい雇用の場の確保や出会いの場の創出等の取り組みを実施する。